

畑の土の手入れ方法を学ぼう



Let's 家庭菜園

営農課 ● 岩本 悠太

畑の土壌は、野菜を作り続けるうちに、地力が失われてしまいます。また、病害虫や雑草が増えたり、生育不良が起きるなど、野菜の育ちが悪くなってしまうます。いつまでも高い地力を保ち、野菜の生育を順調に保つためには、畑の空いた冬の間に、土の手入れをする必要があります。

管理のポイント

野菜がよく育つ良い土の条件

- ①排水性、保水性、通気がよいこと
- ②酸度が適正であること
- ③肥料分に富むこと
- ④病原菌や害虫がすくなくないこと

なかでも①は基本で、そのためには団粒構造をしている土をつくるのが重要です。堆肥や、それに代わるような有機質資材（稲わら、腐葉土など）を十分に施すことが必要です。

よく耕したあと表面は平らにせず、小山を作ったままにしておき、土を寒気にさらし風化させることが重要です。これにより土壌中に空気が入り、病原菌や害虫、雑草の種子などの生息密度を低くすることができます。

団粒を保つ土づくり



堆肥や腐葉土などの有機物を入れてよく耕し、土の団粒構造をつくりあげる



土の手入れ方法

4 畑をならす



3 山にしたままで土を風化させる



2 畑の土に石灰をよく耕し込む



1 冬の間に空いている畑に石灰をまく



7 ひもを張り、まき溝をつくる



6 化成肥料と油粕を土によく耕し込む



5 元肥として化成肥料と油粕を畑全体にまく



10 種の上に覆土し、上から軽く土をたたいておく



9 種をまく



8 種をまく溝にたっぷりと水分を与える

